

# 震災ミュージアムでふり返る“あの時” ～熊本地震から得られた教訓とは～

令和6年度くまもと県民カレッジ  
主催講座(前期)くまもと防災コース

6月20日(木) 14:00～15:40  
現地学習(震災ミュージアムKIOKU)

わたしたちのまちは みんなで守る～日頃のつながりが非常時の安心に～



生涯学習マスコット  
マナビィ

スタッフ(震災ミュージアムKIOKU)



防災士  
いちむら たかひろ  
市村 孝広氏

ガイド  
うえの きよし  
植野 清氏

語り部ガイドのお二人から、震災・防災に関するお話と、震災ミュージアム(熊本地震記憶の廻廊)の中核拠点)の施設について説明を受けながら館内展示室と震災遺構(旧東海大学阿蘇校舎/地表地震断層)を見学。“あの時”を振り返り、あらためて熊本地震や防災について考え、学びました。

※「熊本地震記憶の廻廊」について  
(震災ミュージアムホームページ参照)

「熊本地震記憶の廻廊」は、震災遺構や情報発信拠点(2中核拠点；防災センター(県庁)/震災ミュージアム、14拠点；熊本城/宇土市役所/益城町役場等、および遺構などを繋ぎ、広域的に巡ることで、防災/減災について学び、郷土の自然/文化などへの理解を深める回廊型フィールドミュージアム。

熊本地震震災ミュージアムは、i)伝承〔熊本地震(平成28年(2016年))の記憶や経験/教訓等を確実に後世に伝承し、今後いつどこで起こるか分からない大規模地震災害に備える〕と、ii)発展〔震災ミュージアムの取組を通して交流人口の拡大を図り、被災地域ひいては本県の更なる発展に繋げる〕のため旧東海大学阿蘇キャンパス跡地に建設、令和5年(2023年)7月に開館。

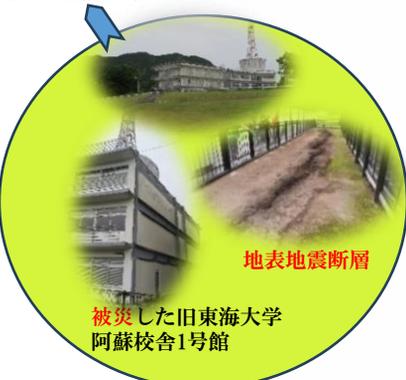


## 熊本地震ドキュメント

熊本地震を発生から2ヵ月間の記録とデータで振り返る  
前震(2016/4/14-21:26)=M6.5 本震(2016/4/16-1:25)=M7.3  
住宅被害(全壊/半壊/一部損壊19万棟以上)  
人的被害(死者273人、重軽傷者2700人以上)



## 震災遺構エリア



地表地震断層  
被災した旧東海大学  
阿蘇校舎1号館

展示室3 自然とともに生きるためには  
熊本地震の被災者たちの言葉や復興・復興の歩みを通して、自然とともに生きるためにどうしたらよいか、考えを深めていきます。

熊本地震の教訓と“自分事化”  
⇒熊本地震から得られた教訓を伝えます。

未来に向けた復興  
復興・復興する熊本の今を伝えます。

熊本地震その時シアター  
地震発生当時の映像等で熊本地震をふり返る



展示室1  
「その時」の記憶をたどる

モノと写真が語る熊本地震  
震災遺物や被災状況の写真等を展示(被災した車/阿蘇大橋プレート/時計など)

## <震災ミュージアムKIOKU>

熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽5343-1  
熊本市から車で約70分(新阿蘇大橋を渡り左折約2.5km)

駐車場

受付 エントランス

企画交流ラウンジ

ラウンジで説明を受ける受講生の皆さん

展示室2  
熊本の大地を知る



熊本地震 記憶の廻廊  
県内に点在する震災遺構等をパネル展示で紹介

大地に見る熊本地震

巨大ジオラマで震度分布等を解説  
熊本を2度の震度7が襲いました。この地震を誘発したのは、県内を走る布田川断層帯と日奈久断層帯の北部。日奈久断層の南部(ずれ動かず断層破壊されなかった)では地震の危険性が依然高い…。

## 熊本地震から得られた教訓とは (企画交流ラウンジの展示パネルから抜粋して概要を纏めた)

- |  |   |  |   |  |   |
|--|---|--|---|--|---|
| i) あなたの家は築何年でどの程度の地震を想定?                 | ii) あなたの寝床の周囲には倒れてきそうな家具はない?              | iii) 今、大きな揺れに襲われたらあなたはまずどんな行動をとる?                          | iv) あなたは日頃から近隣の方々と挨拶や声掛けをしている?                | v) SNSで流れてくる情報が本当に正しいか確認している?  | vi) あなたは普段どれくらいの水/食料を備蓄している?                            |
| 住宅の被災を防ぐには⇒古い家屋は必要に応じて筋交い等の補強工事で耐震強化対策実施 | 家具による被害の防止策⇒転倒防止策(金具で固定等)/出入口の前に置かないなどの対策 | 安全確保・避難行動⇒机/食卓等の下で身の安全確保/火の始末/居場所の避難経路を確認/予め家族との安全確認方法を明確に | 地域における安否確認/救助⇒消防団/自治会等の地域コミュニティで住民同士の協力/互助が重要 | 熊本地震の被災地支援(ex.水/食料等の不足/提供情報等)にはSNSが多く活用。偽情報/誤情報に惑わされないためには発信元(公的機関や公式サイト)かや内容確認が重要 | 水・食料などの確保⇒最低3日分(できれば7日分)の確保と慢性疾患の人/アレルギーの人/乳幼児用の食品なども備蓄 |

取材を終えて；初めて震災ミュージアム(展示室1-3(映像/遺物/写真)・震災遺構など)を見学。薄れていた“あの時”(8年前の熊本地震)の記憶が甦り、あらためて(自分事として)震災の経験・教訓を伝承し(突然の災害に備える)防災の大切さを実感しました。今回も、ご協力ありがとうございました。(くまもと県民カレッジ広報ボランティア H. K作成)